

「いちごいちえ」はJA佐野から街の皆様へのコミュニケーション・メッセージです。たくさんの人々に「食」の喜びを伝え、これから農を支えていくことがコンセプトです。

佐野農業協同組合 栃木県佐野市金吹町 2351 TEL.0283-20-2000

HP <http://www.jasano.jp>

FB <https://www.facebook.com/t.jasano>

## 「佐野産藍」 105年ぶりに復活



趣味講座「藍染め教室」の様子



### 特集

## J A くらしの活動



正藍染め工房「紺邑」代表 大川公一さん

「学は、以て已むべからず。青は藍より出でて藍より青く、水は水これを為して、水よりも寒し」（中国の儒家荀子の言葉）これから弟子が師よりも優れることをこの言葉で表すようになりました。「出藍の誉れ」という言葉はここから来ています。

染め物の一種に、藍染めがあります。郷土史によると佐野市（旧田沼町を含む）は江戸末期から明治にかけて藍の生産が盛んで、郷土の偉人田中正造も作っていたと記録されています。しかし、明治時代にドイツから化学染料が輸入されるようになると天然藍の生産は激減し、1909年（明治42年）に途絶えてしまいました。

佐野市閑馬町の正藍染め工房「紺邑」（TEL 65-8884）の代表・大川公一さんは、平成25年の田中正造没後100年を期に「佐野産藍」の復活を目指し、知人らに呼び掛けました。約20人の有志が「佐野産藍復活プロジェクト」を結成。25年春にメンバーや農家6軒が藍を栽培し、秋に約90キロの葉を収穫しました。この葉を発酵させて、困難とされる藍染めの原料「すくも」を作ることに成功。平成26年春、105年ぶりに佐野産藍が復活しました。

大川さんによると、全国でも天然藍の栽培量は少なく、入手しづらい状況になってしまい、復活を知った全国の工房や染め師から「使いたい」との問い合わせがあるといいます。また、「将来的には佐野産の藍を全国に販売し、佐野市の産業に育て、耕作放棄地の解消につなげたい」と話します。

昨年9月には、JAくらしの活動の一環として、趣味講座「藍染め教室」が開かれ、20人の参加者が藍染めを体験し、佐野藍の歴史を学びました。



